

# はばたきインクル支援だより



深谷はばたき特別支援学校 令和2年7月1日 No.22



今年度は新型コロナウイルスの影響で、登校できなかつたり分散登校だったり、本来の学校生活を続けることが困難でした。不登校の傾向が見られる児童生徒については、継続した指導ができず、はがゆい思いで日々を過ごした先生や保護者もいらっしやっただと思います。

そして、例年よりは短縮されましたが、夏休みを迎えようとしています。夏休み前に一度、不登校について学びなおしをしようと思います。データは「不登校に関する実態調査」平成18年文部科学省を参考にしています。この調査の対象は小1から中3です。

## 特集 不登校について学ぼう

### 1 不登校のきっかけ（複数回答、％）

きっかけ	男子	女子
友人	43.4	60.9
先生	25.0	27.7
勉強	31.6	31.9
部活の友人	19.9	25.7
順応	15.8	18.4
親	11.7	16.3
生活	35.1	34.5
ネット等	18.5	13.5

男女ともに選択率が多かったのは「友人」「勉強」「生活」でした。女子に有意に多く見られたのは「友人」「部活の友人」「親」でした。女子は男子に比較して人間関係のつまづきをきっかけに、不登校になりやすい傾向があるようです。男子に有意に多く見られたのは「ネット等」でした。

また、この結果でわかることは、きっかけの多くが、学校の中のできごとと関係しているということです。友だちや先生、学校への順応が要因になりやすいようです。

「大変だけれど頑張ろう」だけではなく、児童生徒が頑張っ乗り越えていけるように支援することが必要です。

### 2 不登校の継続理由

不登校のきっかけ	不登校の継続理由
友人(いやがらせやいじめ、けんかなど)	いじめや嫌がらせをする児童生徒の存在
部活の友人(先輩からのいじめ、部員とうまくいかないなど)	友人との人間関係
先生(先生が怒る、注意がうるさい、体罰など)	先生との関係
勉強(授業がおもしろくない、成績がよくない、テストがきらいなど)	無気力でなんとなく学校へ行かない 勉強についていけない
生活(朝起きられないなど)	無気力でなんとなく学校へ行かない
ネット等(一度始めるとやめられない、学校より楽しいなど)	学校へ行かないことをあまり悪く思わない なぜ学校に行かなければならないか理解できず、自分の好きな方向を選ぶ 生活リズムが乱れている

不登校が始まると、新たに不登校を継続・悪化させるメカニズムが生じると言われています。それが原因で不登校が長期化してしまうのです。メカニズムは次の3つの側面があります。

### ① 感情

一度学校で不快な体験をすると、登校するときに、不快感を迫体験します。これが毎日重なると、不快感が強くなり、不快ではなかったことも「学校」という場面を思い出すことで、不快感に結びつくようになってしまいます。また過去の不快感が、現在の似たような体験をした時に、不快感を強めてしまうということがあります。

### ② 行動

不快を感じたために学校を休むと、その不快感は一気に解消され、安心を強く感じます。これが次の登校に対して「行きたくない」を強めてしまいます。

### ③ 思考

児童生徒は「学校に行かなくちゃ」とわかっていますし、保護者や先生が登校を望んでいることもわかっています。①で不快感が増し、②で「行けない」が強まり、欠席が続いてしまうと、登校への抵抗感が強くなってしまいます。友だちは自分のことをどう思っているのか、勉強について行けるのか、不安がさらに強まってしまいます。そして、「わたしはダメだ」「わたしはできない」と自己肯定感が低下してしまいます。自分に自信が持てなくなると、無気力に見えることがあります。

## 3 休んでいた時の気持ち（中3）

### ① 特に問題を感じたり、気にしたりすることはなかった。

男女問わず、不登校経験者の4分の1強が、学校を休むことへの抵抗感がないということがわかりました。

### ② 自分自身は悪いこととは思わなかったが、他人の見方が気になった。

女子の方が有意に他人の見方が気になっていることがわかりました。

### ③ 学校へ行きたかったが、行けなかった。

女子は、本当は学校に行きたかったのに、何らかの理由で学校に行けなかったということがわかりました。一方男子は、学校に行かないことをあまり悪く思っていない傾向が強く見られます。

また、別の調査項目では、後で振り返った時に、男子は「行けばよかった」と不登校を後悔することが多いようですが、女子は「仕方なかった」と思う傾向があると出ています。

## 4 誰に相談したか（中3 複数回答 %）

相談先	男子	女子
適応指導教室	18.3	21.5
教育相談所	4.8	6.7
児童相談所	5.0	5.6
保健センター	0.8	1.6
病院	21.6	26.7
フリースクール	7.8	9.7
民間の心理相談	7.4	8.5
保健室の先生	16.9	29.6
担任の先生など	31.6	29.4
スクールカウンセラー	28.7	39.6
その他	5.3	8.5
なし	29.5	18.7

男女ともに学校の先生（保健室の先生・担任の先生など）に相談していることが多いようです。特に女子はスクールカウンセラーや保健室の先生に相談している傾向があるようです。女子は卒業してからも、中学校の先生に相談をしに来ることがあるというデータもあります。

一方、男子は、誰にも相談していないということが多く見られました。

学校全体が児童生徒や保護者の相談機関として機能をすることが大切であることがわかります

不登校に関するテーマは今後も扱っていきます。

